

1H FY11/25

2025年11月期 第2四半期

# 決算説明会資料

2025年7月10日



大阪有機化学工業株式会社

(東証プライム 4187)



01

2025年11月期 第2四半期決算概要

02

2025年11月期 業績予想

03

中期経営計画達成に向けて

04

参考資料

# 2025年11月期 第2四半期決算概要

## 外部状況

景気は緩やかな回復傾向となりましたが、物価高による個人消費の鈍化などにより、一部に足踏みもみられています。米国の通商政策の影響や中東をめぐる情勢等、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

## 売上

化成品、電子材料、機能化学品の各事業で前年同期に比べ売上高が増加しました。この結果、売上高は前年同期比で13.4%増加し、174億円となりました。

## 営業利益

売上高が大きく増加したことに加え、減価償却費の減少などにより、営業利益は前年同期比で57.2%増加し、29億2千2百万円となりました。

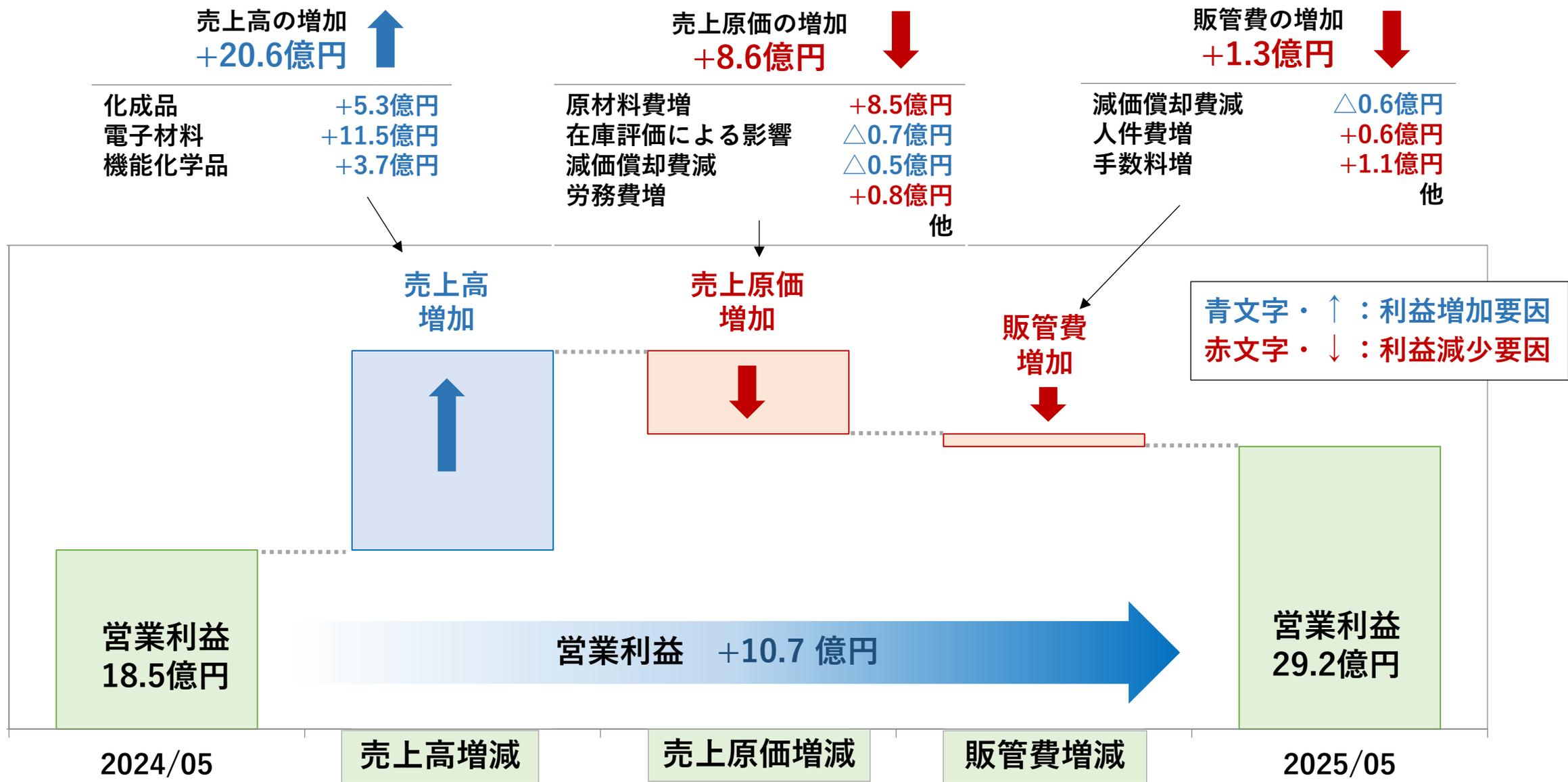
(百万円)

	2024年11月期 上期実績	2025年11月期 上期予想	2025年11月期 上期実績	前年同期比	
				増減額	増減率
売上高	15,338	16,800	17,400	+2,062	+13.4%
営業利益	1,859	2,500	2,922	+1,063	+57.2%
経常利益	1,988	2,600	3,040	+1,052	+52.9%
純利益*	2,020	1,700	2,132	+112	+5.6%
国内ナフサ (¥/KL) (当社推定)	75,750	75,000	69,950	—	—
為替 (¥/\$)	150	155	150	—	—

\*親会社株主に帰属する中間純利益

# ■ 営業利益の増減要因

**増減要因** 電子材料を中心に売上高が大きく増加しました。売上原価、販管費はともに増加しましたが、減価償却費の減少や、在庫評価が増益に寄与しました。その結果、営業利益は10.7億円の増加となりました。



# セグメント実績

## ■ 化成品

自動車用塗料向けの販売は回復傾向、ディスプレイ用粘着剤向けやUVインクジェット用インク向けの販売が好調に推移しました。その結果、売上高・営業利益ともに前年同期比で大きく増加しました。

## ■ 電子材料

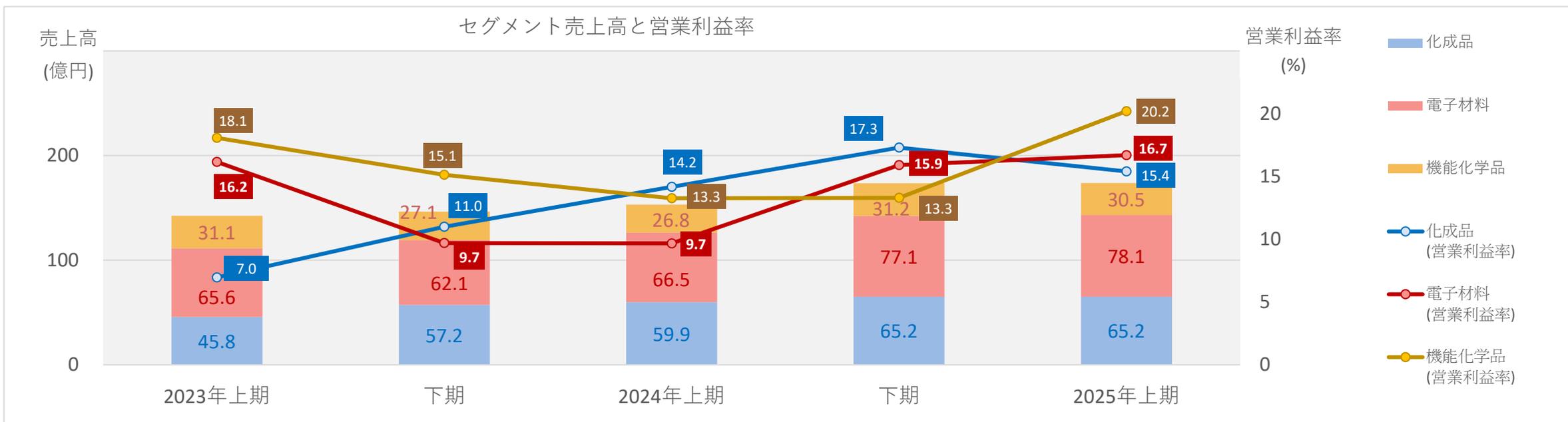
半導体材料は、最先端のEUVレジスト用原料の販売は減少しましたが、主力のArFレジスト用原料の販売が大幅に増加しました。表示材料は、タッチパネル用絶縁膜向けの販売が堅調でした。その結果、売上高・営業利益が前年同期比で大きく増加しました。

## ■ 機能化学品

化粧品原料および機能材料グループは、販売が横ばいで推移しましたが、子会社の高純度特殊溶剤の販売が好調に推移しました。その結果、売上高・営業利益ともに前年同期比で大きく増加しました。

	化成品	電子材料	機能化学品
<b>売上高</b>	<b>65.2</b> (YoY: +8.9%)	<b>78.1</b> (YoY: +17.4%)	<b>30.5</b> (YoY: +13.8%)
<b>営業利益</b>	<b>10.0</b> (YoY: +18.3%)	<b>13.0</b> (YoY: +102.2%)	<b>6.1</b> (YoY: +73.3%)

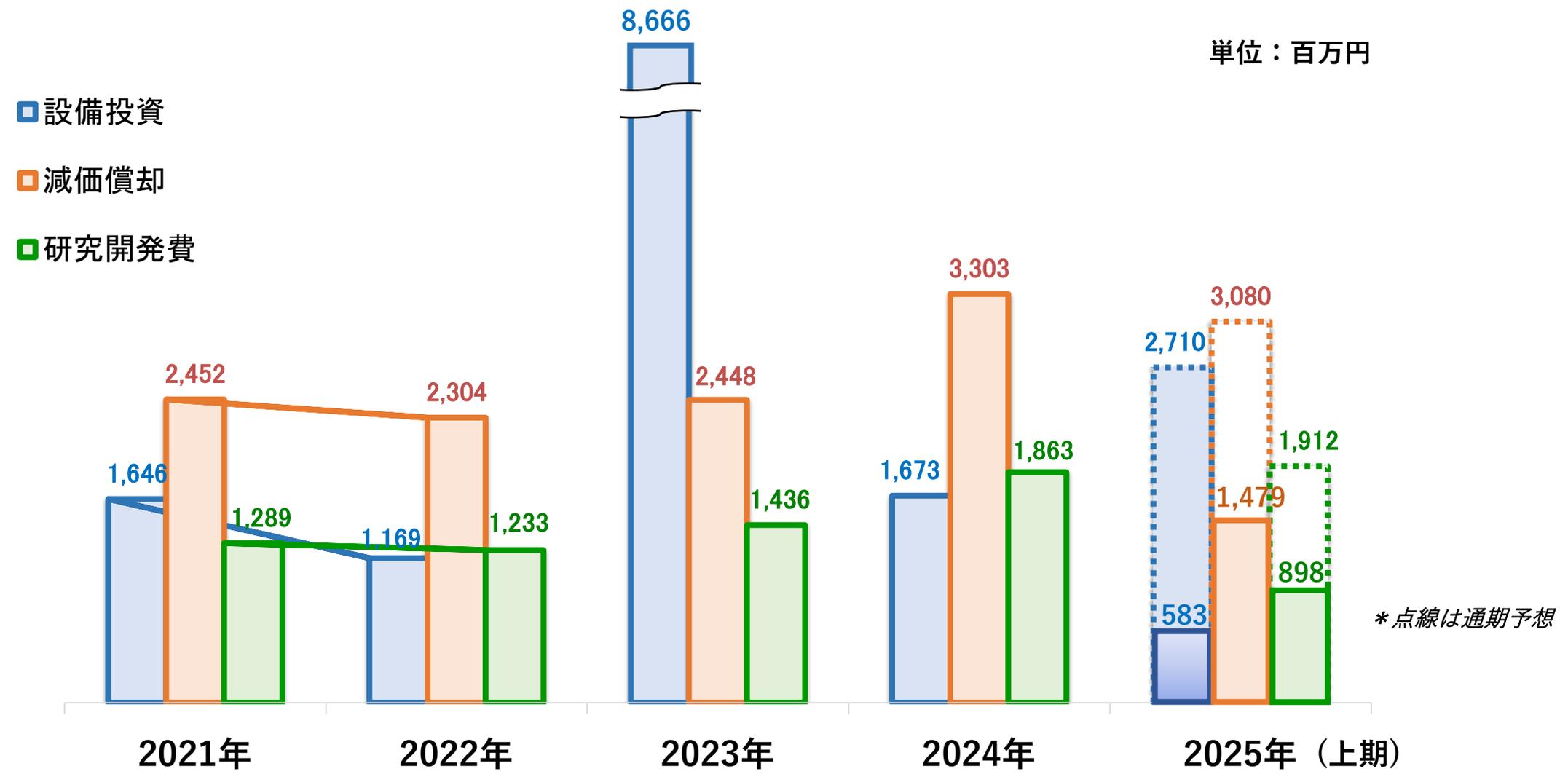
(億円)



# 設備投資・減価償却・研究開発費の推移

概要

2023年に半導体材料製造設備などで、86.6億円の設備投資を行いました。減価償却費は2024年をピークに減少傾向で、2025年上期は14.7億円、通期予想は30.8億円となっています。設備投資は下期に増加する見込みですが、上期時点では5.8億円にとどまりました。



01

2025年11月期 第2四半期決算概要

02

**2025年11月期 業績予想**

03

中期経営計画達成に向けて

04

参考資料

# 業績予想に対する進捗

2025年11月期の通期予想は、売上高 340億円、営業利益 50億円としております。  
 上期時点における通期予想に対する進捗率は、売上高が51.2%、営業利益は58.5%と順調に推移しています。

(百万円)

	2024年11月期 実績	2025年11月期 通期予想	前年実績比		2025年11月期 上期実績	半期 進捗率
			増減額	増減率		
売上高	32,698	34,000	+1,301	+4.0%	17,400	51.2%
営業利益	4,608	5,000	+391	+8.5%	2,922	58.5%
経常利益	4,753	5,200	+446	+9.4%	3,040	58.5%
純利益*	4,044	3,500	△544	△13.5%	2,132	60.9%
国内ナフサ (¥/KL) (当社推定)	75,600	75,000	—	—	69,950	—
為替 (¥/\$)	150	155	—	—	150	—

\*親会社株主に帰属する当期(中間)純利益

2025年上期 売上高	2025年 通期予想	進捗率 vs 通期予想	売上高・営業利益率
<b>65.2</b> 億円	<b>129.0</b> 億円	<b>50.6</b> %	

## ● 外部環境

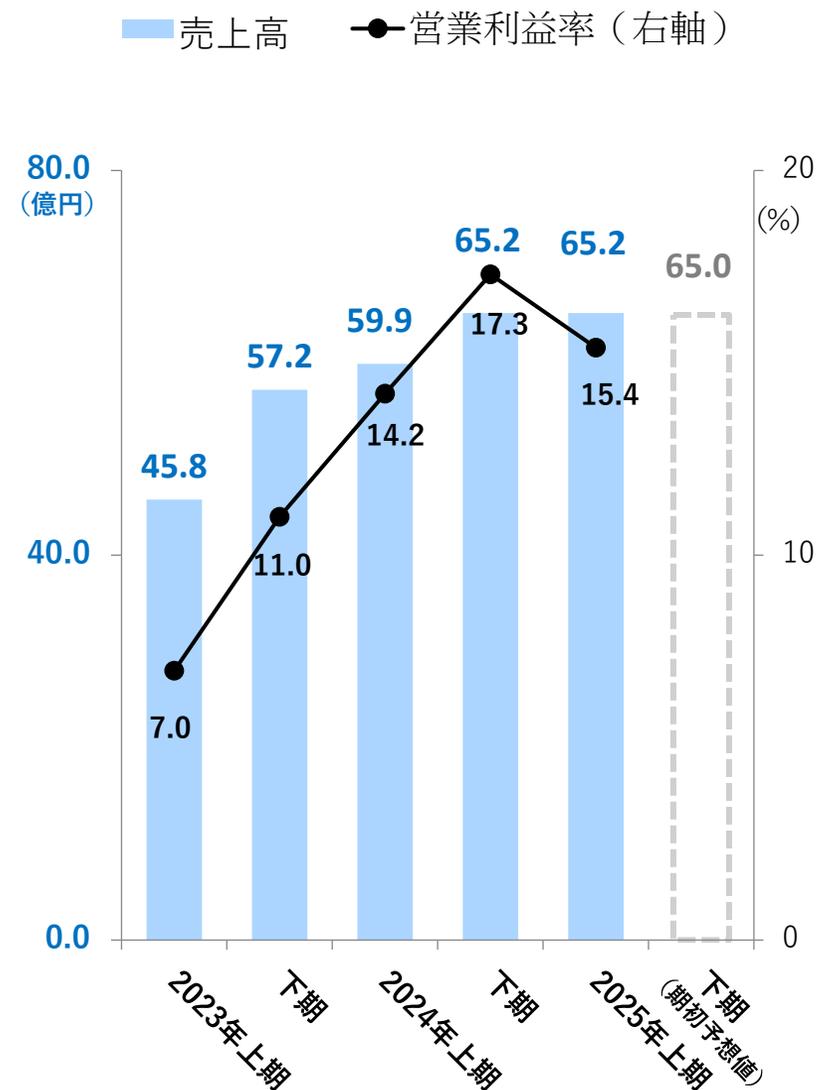
- ・自動車生産は緩やかながら回復傾向。
- ・ディスプレイ関連は、中国の補助金政策などで堅調な状況が継続。

## ● 当社の状況

- ・自動車用塗料向けは回復傾向。
- ・ディスプレイ用粘着剤向け、UVインクジェット用インク向けは好調に推移。

## ● 市場におけるリスク

- ・アメリカの関税政策の影響。
- ・天然由来原料相場の高騰。
- ・急激な為替の変動。



2025年上期 売上高	2025年 通期予想	進捗率 vs 通期予想
<b>78.1</b> 億円	<b>155.0</b> 億円	<b>50.4</b> %

## ● 外部環境

- ・ 半導体市場は最先端品が牽引して回復基調が継続。
- ・ 液晶ディスプレイ市場は中国シフトが継続。

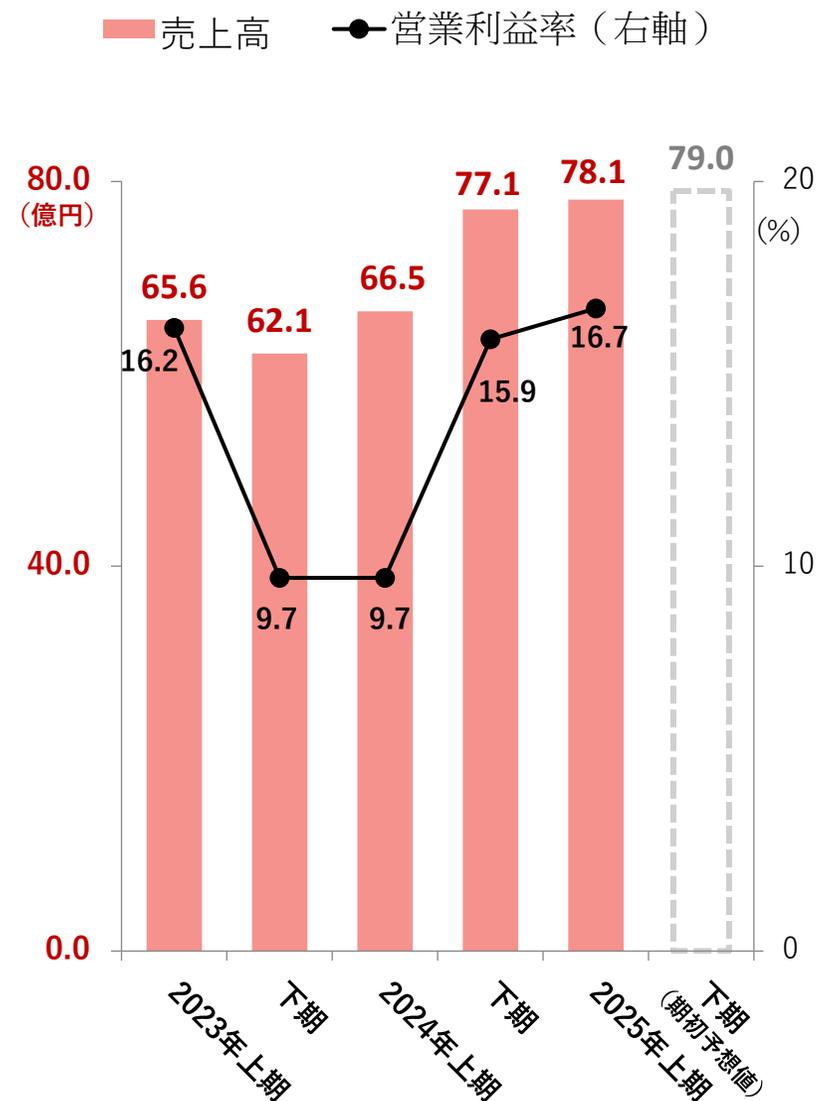
## ● 当社の状況

- ・ 主力のArFレジスト用原料は、回復傾向が続いており、YoYで大幅増。
- ・ EUVレジスト用原料は、開発品が多いため振れ幅が大きく、今期は減少。
- ・ 表示材料グループは、堅調に推移。

## ● 市場におけるリスク

- ・ 米中経済対立の激化。
- ・ 中国での半導体内製化の進展。

## 売上高・営業利益率



2025年上期 売上高	2025年 通期予想	進捗率 vs 通期予想	売上高・営業利益率
<b>30.5</b> 億円	<b>56.0</b> 億円	<b>54.6</b> %	

## ●外部環境

- ・国内の化粧品市場は堅調に推移。
- ・中国では景気減速に加え、ローカルメーカーの台頭で競争環境が変化。

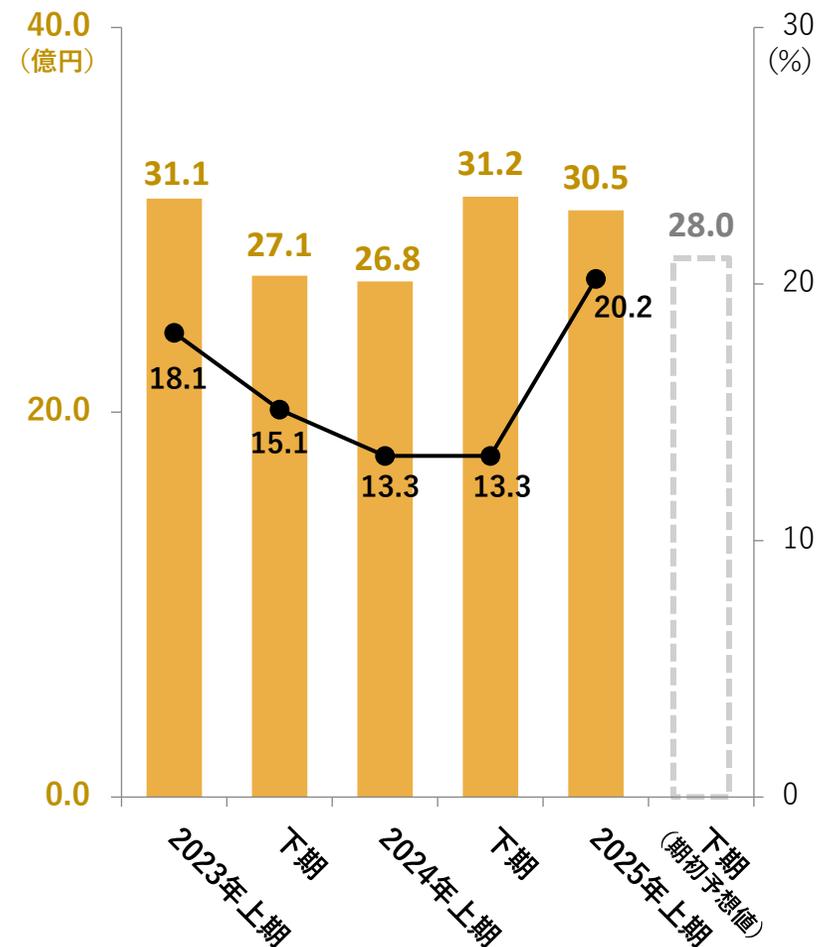
## ●当社の状況

- ・化粧品原料は堅調。
- ・子会社の高純度特殊溶剤は好調に推移。

## ●市場におけるリスク

- ・中国市況回復の遅れ。

■売上高 ●営業利益率（右軸）



01

2025年11月期 第2四半期決算概要

02

2025年11月期 業績予想

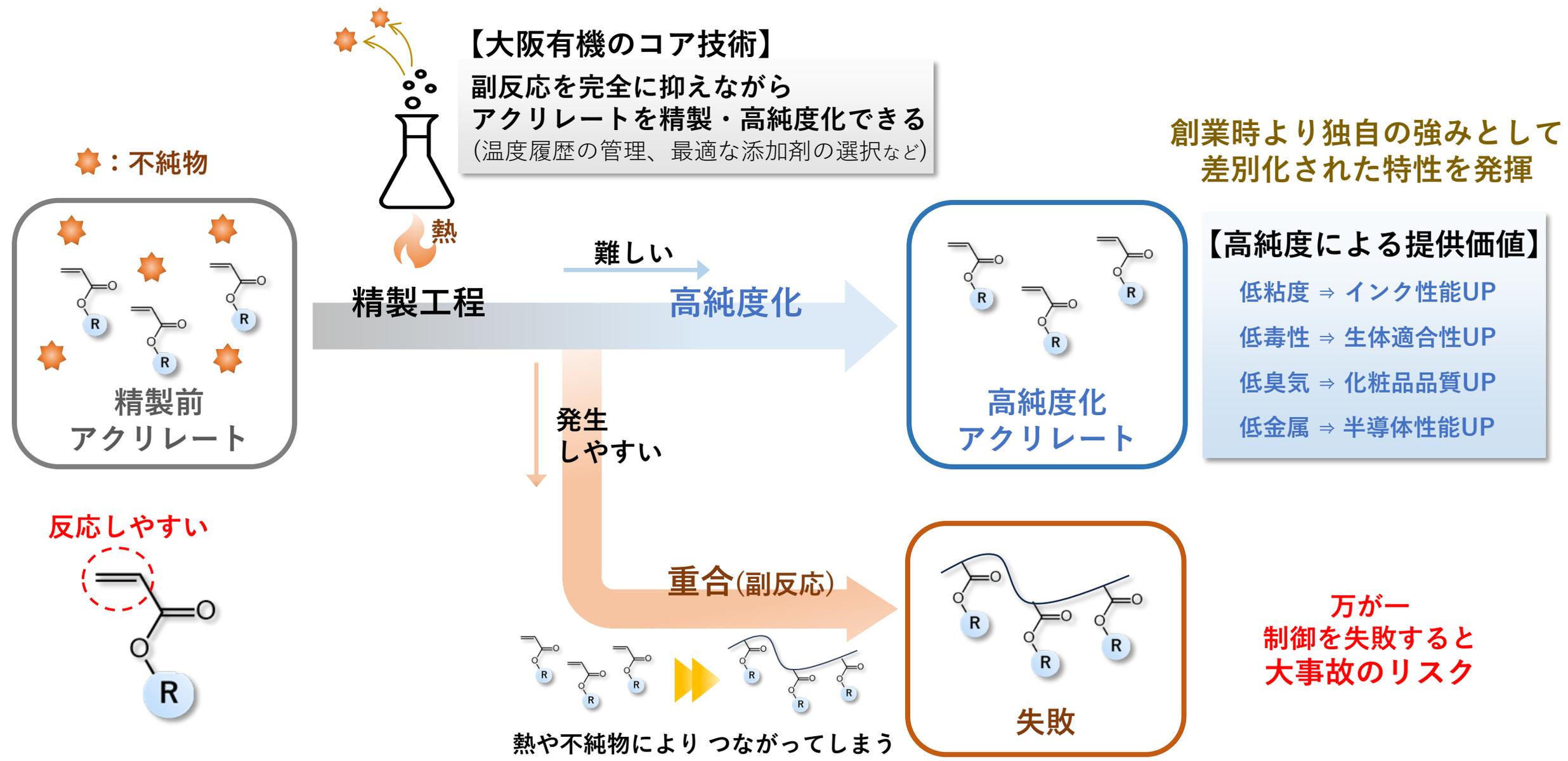
03

**中期経営計画の達成に向けて**

04

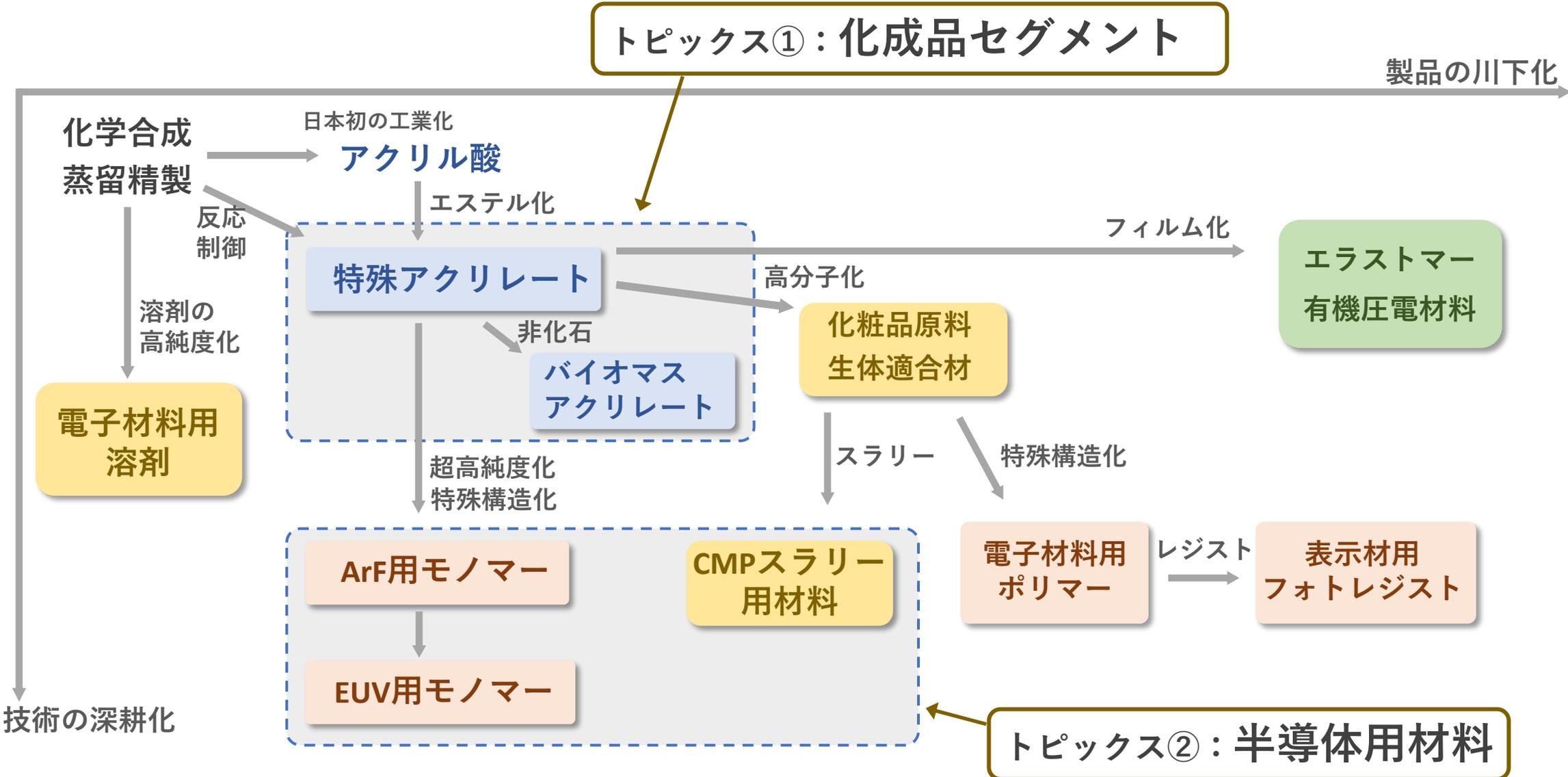
参考資料

# ■弊社製品を支えるコア技術 ~特殊アクリレートの高純度化~



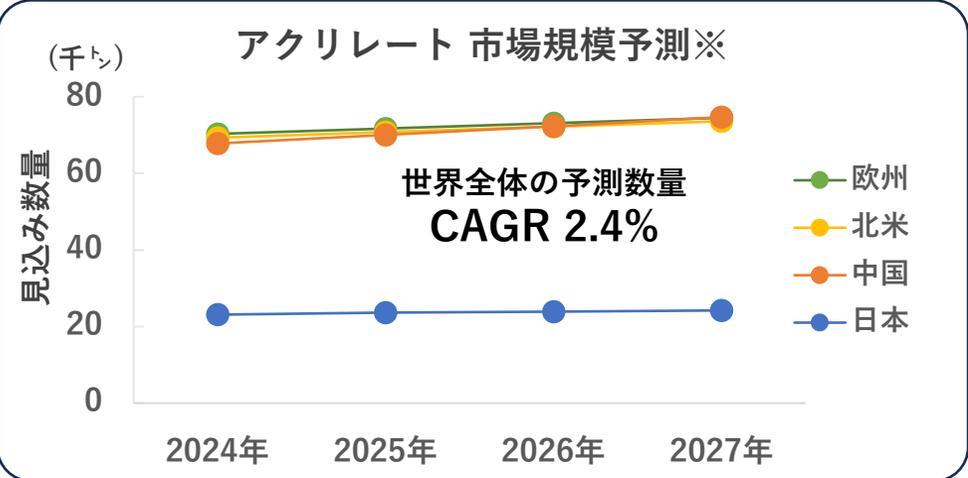
# ■ 弊社の事業領域マップと本日のトピックス

弊社コア技術である高純度化特殊アクリレートを基に、技術の深耕化と製品の川下化により製品を展開。中期経営計画Progress& Development 2030により更なる展開を進めております。



# ■ 化成品セグメントの中期計画での取り組み

歴史の長い製品群ながら、技術・販売・製造の強い連携により、更なる発展に向け施策を投じております。



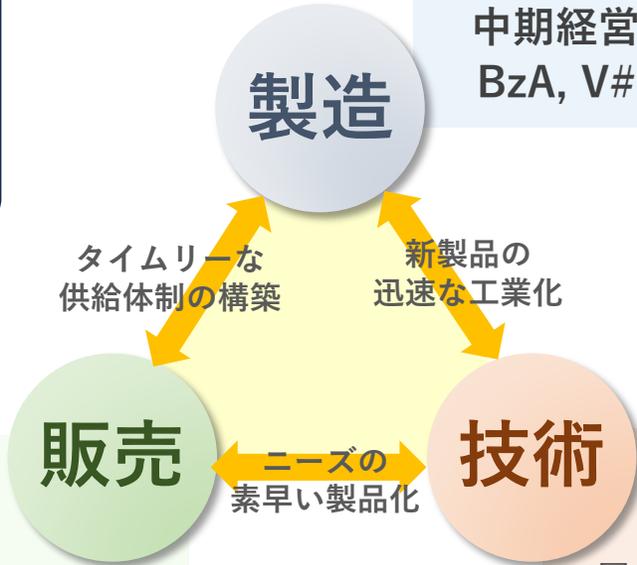
海外市場へのシェア拡大



**販路の拡大**

- 海外への販路拡大
- 新中村化学との北米販売拠点  
2025年上期 合併契約締結  
2025年下期 合併会社設立予定

ニーズに対応可能な供給体制



## 生産能力の拡充

- ・ プラント投資による生産能力向上
- ・ 工程改善による生産効率の向上

中期経営計画 P&D2030での投資額 約 5.3 億円  
BzA, V#200, 4-HBA など 生産能力 約1.1 倍 UP

## 技術開発の継続

- ・ 最効率な生産方法への転換 (エステル交換法など)
- ・ 新規化合物の開発によるラインナップの拡充
- ・ 100%バイオマス化アクリレートの開発

※グラフは富士経済「光機能材料・製品市場の全貌」を基に弊社作成

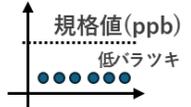
# ■半導体用材料の取り組み

対応力の更なる強化の為、2025年に中量実験室の建設,稼働を予定。  
また、フォトレジスト用材料以外への展開も挑戦しております。

## 弊社の半導体用材料の強み

### 強み①：特殊モノマーの提案力

- ・顧客ニーズに応える化学構造の提案
- ・構造を実現するモノマー合成技術
- ・超高純度かつばらつきの無い品質



顧客との  
評価/検証

### 強み③：迅速かつきめ細やかな対応

- ・顧客との検討サイクル高速化
- ・素早い工業化、法対応、原料調達
- ・顧客/レジストごとの化学構造, 品質規格

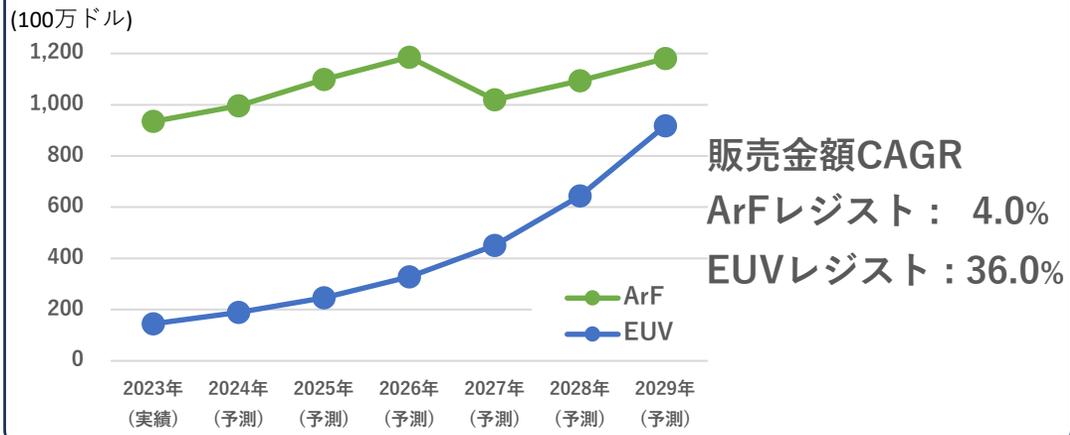
更なる強化：2025年 中量実験室の建設,稼働予定(EUV用)

### 強み②：タイムリーな投資

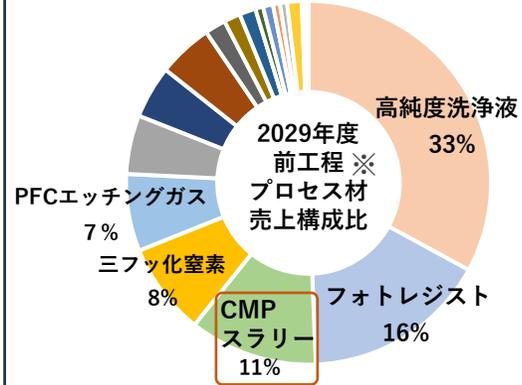


投資実績 (FY19～FY23年累積) **195 億円**

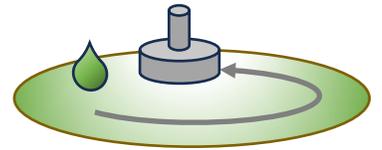
## フォトレジストの市場※



## 周辺材への展開



CMPスラリー用の材料や、  
後工程用材など、  
周辺材料への展開を検討中



01

2025年11月期 第2四半期決算概要

02

2025年11月期 業績予想

03

中期経営計画の達成に向けて

04

参考資料

# 貸借対照表

(百万円)

	2024/11	2025/05	増減額	主な内訳	増減額
<b>資産</b>					
流動資産	34,287	33,998	△288	現金及び預金	△459
有形固定資産	18,415	17,573	△842	機械装置及び運搬具（純額）	△657
無形固定資産	73	56	△17		
投資その他の資産	7,188	7,009	△178	投資有価証券	△205
<b>負債</b>					
流動負債	11,729	11,738	+8	支払手形及び買掛金	+204
固定負債	2,094	1,741	△353	長期借入金	△273
<b>純資産</b>	<b>46,139</b>	<b>45,157</b>	<b>△982</b>	利益剰余金 自己株式	+1,406 △2,196
<b>総資産</b>	<b>59,964</b>	<b>58,637</b>	<b>△1,327</b>		

財務指標	2025/05時点
自己資本比率	75.7%
手元流動性比率	3.8ヵ月
DEレシオ	0.07
ネットDEレシオ	-0.23
インタレスト・カバレッジ・レシオ	836倍

# ■ 損益計算書

## 営業外 損益

営業外収益は、受取保険金の影響などにより前期比では増加しました。  
営業外費用は為替差損の影響などにより増加しました。

## 特別 損益

特別利益では、昨年、政策保有株式の売却益があったため前期比では減少しました。

青字：利益増加要因  
赤字：利益減少要因

(百万円)

	2024/05	2025/05	増減額	主な内訳	増減額
営業外収益	154	221	+66	為替差益 受取保険金	△67 +101
営業外費用	25	103	+77	為替差損 寄付金	+96 △20
特別利益	815	—	△815	投資有価証券売却益	△815
特別損失	1	0	△0		

(百万円)

	2024/05	2025/05	主な内訳	
営業活動によるCF	5,473	3,650	税金等調整前中間純利益 減価償却費 法人税等の支払額	3,040 1,469 △906
投資活動によるCF	460	△711	有形固定資産の取得による支出	△572
財務活動によるCF	△1,906	△3,375	自己株式の取得による支出 配当金の支払額	△2,226 △718
現金及び現金同等物に係る換算差額	77	△101		
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	4,104	△537		
現金及び現金同等物の中間期末残高	11,995	12,587		

### < 将来情報に関する注意事項 >

本資料の業績予想や経営計画は、現時点において見積もられた見通しや計画であり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績等は、様々な要因やリスクにより大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。



大阪有機化学工業株式会社

【お問い合わせ】

管理本部 IR・広報担当

TEL 06-6264-5071 (代表)